

富国生命

「メンター・アワード2010」

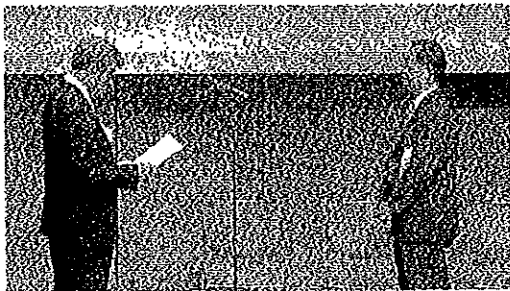
組織部門で優秀賞

富国生命はこのほど、日本生産性本部主催の「メンター・アワード2010」の組織部門で優秀賞を受賞した。独自の制度や創意工夫が評価につながったという。2月18日には都内で表彰式やパネルディスカッションが開かれた。

個人的な悩みにも広く相談に乗り、助言する先輩社員を指す。保険会社でも総合職の新入職員を対象にした人材開発制度の一環で、導入する先が増えてきた。

富国生命の受賞は、公募制で自ら応募したメンターとシニアメンターでチームを構成、新人全員をサポートしている点が評価された。

日本生産性本部会長、ワーキングウーマン・パワーアップ会議の牛尾治朗顧問(左)から表彰を受ける林敏広取締役



「メンターは、上司や人事担当者からの指名や推薦でなく立候補によって選ばれモチベーションが高い。指名制でありがちなのと、さらされ感はない」という。活動を進める中で、メンターの悩みを聞き、アドバイスするシニアメンターも管理職層からの公募だ。「自分たちも制度に参加したい」との声を

た。企業の風土や文化などのDNAを引き継ぐという効果も表れているという。メンターと新入職員の活動は主に電話を活用する。

そのため「コーチング研修」を定期的に実施、顔が見えない中でコミュニケーション技術を高める工夫もある。

富国生命では制度が奏功し、総合職で採用される女性の割合が06年度には8・3%だったが、09年度には14・6%に増加した。

表彰式では日本生産性本部会長でワーキング

ウーマン・パワーアップ会議の牛尾治朗顧問から、林敏広取締役が表彰

を受けた。

表彰式後に開かれた「女性活躍を応援する組織とメンター」をテーマにするパネルディスカッションでは、人事部人材開発グループの鬼澤英生課長がパネリストを務めた。